

12課

主を伝える

6月20日

安息日午後

6月13日

暗証聖句

主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え/疲れた人を励ますように/言葉を呼び覚ましてくださる。朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし/弟子として聞き従うようにしてくださる。(イザヤ 50:4、新共同訳)

主なる神は教をうけた者の舌をわたしに与えて、疲れた者を言葉をもって助けることを知らせ、また朝ごとにさまし、わたしの耳をさまして、教をうけた者のように聞かせられる。(イザヤ 50:4、口語訳)

今週の聖句

マタイ 28:18～20、Ⅱペトロ(ペテロ)3:18、Ⅰペトロ(ペテロ)3:8～15、ホセア 7章、ゼカリヤ 10章

今週のテーマ

G 牧師にとって、その安息日は朝から忙しい1日でした。彼は早く起き、安息日学校と説教の準備をし、午後には伝道講演会もすることになっていました。彼は鍵をつかむと玄関を飛び出し、急いで車を走らせました。

彼は市内の渋滞の中を運転しながら、土曜の朝なのにこんなに多くの人が外出していて、教会に遅れてしまうかもしれないといら立ちました。「みんなどこへ行くんだ?」。すると突然、1台の車が彼の前に割り込んできました。牧師は急ブレーキをかけ、いら立ちと怒りから拳を突き上げ、運転手を怒鳴りつけてしまいました。

やっとのことで、G 牧師は教会に到着しました。聖書研究を始めるために立ち上がり、クラス全体を見渡すと、見覚えのある顔に目が留まりました。たった20分前に彼が怒鳴りつけた、あの車の運転手でした。

あとになって、1人の教会員がその運転手を、親戚を訪ねて来たアドベンチストでない人だと紹介したとき、G 牧師は改めて気づかされました。相手が知人であろうとなかろうと、あらゆる交流は、神との変わらない関係から湧き出る愛に包まれていなければならないと。あなたの行動、特に信者としての行動がほかの人にどんな影響を与えるか、あなたには決してわからないのです。

問1 マタイ 28:18~20 の大宣教命令を読んでください。イエスが「すべて」あるいは「いつも」（ギリシア語では、どちらも同じ語「パス」）と言われたときの、異なるメッセージを書き記してください。

イエスは私たちに、ご自分のメッセージを世界に伝えるという使命を与えられました。「だから、あなたがたは行って……弟子にしなさい」〔口語訳「それゆえに、あなたがたは行って……弟子としなさい」(マタ 28:19)〕。セブンスデー・アドベンチスト教会の使命は、弟子をつくることであり、その弟子がさらに別の弟子をつくることです。こうして私たちはみな、永遠の福音と三天使のメッセージ(黙 14:6~12)を宣べ伝え、イエスの差し迫った再臨にこの世を備えさせます。

キリストにあって新しい命を受けた人はみな、証しをするように召されています。しかし多くの場合、人々は証しを、「自分にはできない」、あるいは「したくない」と考えがちです。街角で説教したり、複雑な聖書研究をしたりする自分の姿を思い浮かべて、「私には無理! 絶対に無理! 私は人前に出るのは苦手だし、証しするのは得意ではない」と、首を横に振るかもしれません。

しかし真の証しとは、多くの場合、神があなたの人生でなしておられること目撃者となり、神があなたに教えておられることに気づき、その経験をほかの人に伝えることです。神はとても良いお方で、神が私たちのためになされたことは、この世が聞くことのできる最高の知らせです。私たちは沈黙することができませんし、沈黙すべきでもありません! 神はあなたをあがない、あなたの名前を呼んでくださいました。つまり、あなたは神のものです。これ以上にすばらしい知らせが、どこにあるのでしょうか。

初代教会の弟子たちは、教養があったわけでも、雄弁だったわけでもありませんが、それでも私たちは彼らから学ぶことができます。

問2 使徒言行録(使徒行伝)1:8、4:13 を読んでください。初代教会にとって、証しとはどのようなものでしたか。ペトロ(ペテロ)とヨハネは、彼らの証しを聞いた人々にどんな影響を与えましたか。

ペトロとヨハネはさらに、「わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです」〔口語訳「わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」〕(使徒 4:20)と明言しました。彼らは、「イエスと一緒にいた」〔口語訳「イエスと共にいた」〕(同 4:13)ので、伝えずにはいられなかったのです。〔※英語テキストには続きに英文があります:The Holy Spirit gave them boldness and a convincing power in their words. 聖霊は彼らに大胆さと説得力のある言葉をお与えになりました。〕

【参考】英語テキストにある文

Spend some time in prayer right now. Ask God for courage to share Him with people He puts in your life. Ask Him for wisdom to know when to share and what to say. Read 1 John 4:7-11 and pray for this kind of love.

今すぐ祈りの時間を取みましょう。神があなたの人生に招いてくださる人々に神について伝える勇気を神に求めましょう。いつ伝えるべきか、何を話すべきかを知るための知恵も求めてください。Iヨハネ 4:7~11 を読み、このような愛が与えられるように祈りましょう。

82

マタ 28:18~20 (新共同訳)

28:18 イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。

28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

黙 14:6~12 (新共同訳)

14:6 わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て、

14:7 大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい。」

14:8 また、別の第二の天使が続いて来て、こう言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。怒りを招くみだらな行いのぶどう酒を、諸国の民に飲ませたこの都が。」

14:9 また、別の第三の天使も続いて来て、大声でこう言った。「だれでも、獣とその像を拝み、額や手にこの獣の刻印を受ける者があれば、

14:10 その者自身も、神の怒りの杯に混ぜものなしに注がれた、神の怒りのぶどう酒を飲むことになり、また、聖なる天使たちと小羊の前で、火と硫黄で苦しめられることになる。

マタ 28:18~20 (口語訳)

28:18 イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

28:20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」

黙 14:6~12 (口語訳)

14:6 わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、

14:7 大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時が来たからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め。」

14:8 また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者。」

14:9ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、

14:10 神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。

14:11 その苦しみの煙は、世々限りなく立ち上り、獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぐことはない。」

14:12 ここに、神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍耐が必要である。

使徒 1:8 (新共同訳)

1:8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

使徒 4:13 (新共同訳)

4:13 議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚き、また、イエスと一緒にいた者であるということも分かった。

使徒 4:20 (新共同訳)

4:20 わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。」

Iヨハ 4:7~11 (新共同訳)

4:7 愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。

4:8 愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

4:9 神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。

4:11 愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

4:12 いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、

14:11 その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。

14:12 ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。

使徒 1:8 (口語訳)

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

使徒 4:13 (口語訳)

4:13 人々はペテロとヨハネとの大胆な話しぶりを見、また同時に、ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であることを認め、

使徒 4:20 (口語訳)

4:20 わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」。

Iヨハ 4:7~11 (口語訳)

4:7 愛する者たちよ。わたしたちは互いに愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。

4:8 愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

4:9 神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

4:11 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互いに愛し合うべきである。

4:12 神を見た者は、まだひとりもない。もしわたしたちが互いに愛し合うなら、

神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内ですべて全うされているのです。

神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。

月曜日 6月15日 強制的ではないが力強く

あなたはこれまでに、イエスがどのようにしてあれほど多くの人に、日々働きかけ、説教し、彼らを癒やし、慰め、教える意欲を持ち続けられたのだろうか、不思議に思ったことはありませんか。イエスは、「群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」〔口語訳「群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた」〕(マタ 9:36)と記されています。彼の働きを突き動かしたのは、人類に対する愛と憐れみでした。同じように、私たちの内にある神の愛は、私たちを駆り立て、魂を神とその真理へ導くという重荷を感じさせるはずです(Ⅱコリ 5:14)。

群衆の中にいる見知らぬ人の顔を見て、永遠の未来に思いをはせ、彼らはイエスを知っているだろうかと思ったことはありませんか。困っている見知らぬ人に対して、あなたの内にある神の愛としか言いようのないものを感じたことはありませんか。私たちの内にある神の愛は、魂を神へ導くという重荷を感じさせるのです。エレミヤはこのことをこう表現しました。「主の言葉は、わたしの心の中/骨の中に閉じ込められて/火のように燃え上がります。押しえつけておこうとして/わたしは疲れ果てました。わたしの負けです」〔口語訳「主の言葉がわたしの心にあって、燃える火のわが骨のうちに閉じこめられているようで、それを押えるのに疲れはてて、耐えることができません」〕(エレ 20:9)。

しかし、私たちがほかの人に神を伝えるとき、神や聖書の真理を受け入れるように強制すべきではありません。強制は、神の品性に反するからです。神はアダムとエバに、善悪を知る木から離れていなさいと強制はなさいませんでした(創 2:16、17)。神は、大洪水から救われるために、人々を箱舟に無理やり押し込めることもありませんでした(同 7:1)、イスラエルの人々が神との契約にとどまるように強制されることもありませんでした(申 4:29~31)。むしろ、神は彼らの必要を満たし(マタ 4:23~25)、それからご自分に従うよう招かれました。イエスは、ご自分やご自分の真理に従えと誰も強制しませんでした、決して私たちを見捨てられることはありません(同 23:37)。

証しをするとき、私たちは、常にイエスの仕方に倣うべきです。エレン・ホワイトは、こう言っています。「キリストを受け入れるように人々に強制することは、キリストの働きの一部ではない。良心を強制するのは、サタンと、サタンの精神に動かされている人々である。……われわれの働きを理解しない人たちや、われわれの考えと反対な行動をするような人たちを傷つけたり、滅ぼしたりしようとする気持ちくらしい、われわれがサタンの精神を持っていることの決定的な証拠はない」(『希望へ

の光』928 ページ、『各時代の希望』第53章)。

私たちは、神の奉仕のための管とならなければなりません。私たちは、真理を憎む世界に生きていますが、その現実が、思慮深く愛に満ちた方法で真理を伝えることの妨げとなるべきではありません。証しの初期の段階では、特に、私たち自身の個人的な証しがしばしば最も影響力を持つということを忘れないでください(黙12:11)。

【参考】英語テキストにある文

Read 2 Peter 3:18. In what ways are you growing in grace and knowledge? How is this evident in your interactions with those around you?

Ⅱペトロ(ペテロ)3:18を読んでください。あなたはどのような点で、恵みと知識において、成長していますか(口語訳:恵みと知識とにおいて、ますます豊かになっていますか)。それは、周囲の人々との関わりの中でどのように表れていますか。

83

マタ 9:36 (新共同訳)

9:36 また、群衆が飼いきれない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれました。

Ⅱコリ 5:14 (新共同訳)

5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだことになりました。

エレ 20:9 (新共同訳)

20:9 主の名を口にすまい/もうその名によって語るまい、と思っても/主の言葉は、わたしの心の中/骨の中に閉じ込められて/火のように燃え上がります。押さえつけておこうとして/わたしは疲れ果えました。わたしの負けです。

創 2:16、17 (新共同訳)

2:16 主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。

2:17 ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

創 7:1 (新共同訳)

7:1 主はノアに言われた。「さあ、あなたとあなたの家族は皆、箱舟に入りなさい。

マタ 9:36 (口語訳)

9:36 また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれました。

Ⅱコリ 5:14 (口語訳)

5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。わたしたちはこう考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。

エレ 20:9 (口語訳)

20:9 もしわたしが、「主のことは、重ねて言わない、このうえその名によって語る事はしない」と言えば、主の言葉がわたしの心にあって、燃える火のわが骨のうちに閉じこめられているようで、それを押えるのに疲れはてて、耐えることができません。

創 2:16、17 (口語訳)

2:16 主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。

2:17 しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。」

創 7:1 (口語訳)

7:1 主はノアに言われた、「あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。あなたが

この世代の中であなただけはわたしに従う人だと、わたしは認めている。

申 4:29~31 (新共同訳)

4:29 しかしあなたたちは、その所からあなたの神、主を尋ね求めねばならない。心を尽くし、魂を尽くして求めるならば、あなたは神に出会うであろう。

4:30 これらすべてのことがあなたに臨む終わりの日、苦しみの時に、あなたはあなたの神、主のもとに立ち帰り、その声に聞き従う。

4:31 あなたの神、主は憐れみ深い神であり、あなたを見捨てることも滅ぼすことも、あなたの先祖に誓われた契約を忘れることもないからである。

マタ 4:23~25 (新共同訳)

4:23 イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた。

4:24 そこで、イエスの評判がシリア中に広まった。人々がイエスのところへ、いろいろな病気や苦しみに悩む者、悪霊に取りつかれた者、てんかんの者、中風の者など、あらゆる病人を連れて来たので、これらの人々をいやされた。

4:25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。

マタ 23:37 (新共同訳)

23:37 「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。

黙 12:11 (新共同訳)

12:11 兄弟たちは、小羊の血と自分たちの証しの言葉とで、彼に打ち勝った。彼らは、死に至るまで命を惜しまなかった。

Ⅱペト 3:18 (新共同訳)

3:18 わたしたちの主、救い主イエス・キ

この時代の人々の中で、わたしの前に正しい人であるとわたしは認めたからである。

申 4:29~31 (口語訳)

4:29 しかし、その所からあなたの神、主を求め、もし心をつくし、精神をつくして、主を求めるならば、あなたは主に会うであろう。

4:30 後の日になって、あなたがなやみにあい、これらのすべての事が、あなたに臨むとき、もしあなたの神、主に立ち帰ってその声に聞きしたがうならば、

4:31 あなたの神、主はいつくしみの深い神であるから、あなたを捨てず、あなたを滅ぼさず、またあなたの先祖に誓った契約を忘れられないであろう。

マタ 4:23~25 (口語訳)

4:23 イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。

4:24 そこで、その評判はシリア全地にひろまり、人々があらゆる病にかかっている者、すなわち、いろいろの病気と苦しみとに悩んでいる者、悪霊につかれている者、てんかん、中風の者などをイエスのところに連れてきたので、これらの人々をおいやしになった。

4:25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ及びヨルダンの向こうから、おびただしい群衆がきてイエスに従った。

マタ 23:37 (口語訳)

23:37 ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。

黙 12:11 (口語訳)

12:11 兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼にうち勝ち、死に至るまでもそのいのちを惜しまなかった。

Ⅱペテ 3:18 (口語訳)

3:18 そして、わたしたちの主また救主イ

リストの恵みと知識において、成長なさい。このイエス・キリストに、今も、また永遠に栄光がありますように、アーメン。

エス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。栄光が、今も、また永遠の日に至るまでも、主にあるように、アマメン。

火曜日 6月16日 イエスを伝えるためのヒント

私たち1人ひとりが自問すべきは、自分は誰にイエスを伝えているかということです。郵便配達員、店員、それとも毎日散歩で会う人でしょうか。神はすべての信者に、この働きを共に担ってほしいと呼びかけ、「弟子としての舌をわたしに与え/疲れた人を励ますように/言葉と呼び覚ま(す)」[口語訳「教をうけた者の舌をわたしに与えて、疲れた者を言葉をもって助けることを知らせ(る)」](イザ50:4)と約束しておられます。また、私たちの内にある信仰と希望について弁明する用意を常にしておくことも、クリスチャンの義務です(1ペト[ペテ]3:15)。

問3 1ペトロ(ペテロ)3:8~15 を読んでください。この箇所で、聖書は私たちにどんなことを教えていますか。

イエスをもっと意図的に伝える方法を考える際に、心に留めておきたい簡単なヒントをいくつかご紹介します。

- 誰かと知り合いになり、時間をかけて友情を築いてください。あなたの温かさ、優しさ、そして相手に対する純粋な関心(「愛される」存在であること)は、相手を神に引き寄せる助けとなります(これを「友情伝道」と呼ぶ人もいます)。
- 聖霊が相手の心に働きかけてくださるように祈ってください。相手と交わるための良い機会が与えられるよう祈り求めましょう。
- 自然な形で、あなた自身の信仰体験について話したり、相手のために祈ったりする機会を探してください。大胆でありながらも優しく接することができるよう、神に祈りましょう。
- 新しい友人をあなたの教会の仲間とつなげる方法を見つけてください。そうすることで、教会共同体に受け入れられる感じを体験してもらえます。社会的な聖書研究や小グループの聖書研究は、次の良いステップです。
- 新しい友人が抱えている具体的な必要や疑問について祈り、聖書が人生において慰め、助言、導きを、いかに与えてくれるかを示す機会を探してください。最初は、聖書の約束を一つだけ伝えたり、一つの質問に答えたりするだけでも、より深い話し合いのきっかけになるでしょう。そのために祈りましょう。
- 友人に、次のステップ(聖書研究、最終的にはバプテスマ)に進みたいかどうかを尋ねたくなる時が来るでしょう。これらのステップを急ぐ必要はありませんが、遅れてもいけません。このことについて祈ってください。

- 私たちの行動は、私たちが何者であるかを明らかにするはずです。生活の中で、私たちがほかの人にどう接するかが、多くのことを物語ります。私たちの品性が神の姿へと形づくられるにつれて(聖化)、私たちはすべての人を神に引き寄せるために生きることになるでしょう。

84

イザ 50:4 (新共同訳)

50:4 主なる神は、弟子としての舌をわたしに与え/疲れた人を励ますように/言葉を呼び覚ましてくださる。朝ごとにわたしの耳を呼び覚まし/弟子として聞き従うようにしてくださる。

I ペト 3:8~15 (新共同訳)

3:8 終わりに、皆心一つに、同情し合い、兄弟を愛し、憐れみ深く、謙虚になりなさい。

3:9 悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです。

3:10 「いのちを愛し、幸せな日々を過ごしたい人は、舌を制して、悪を言わず、唇を閉じて、偽りを語らず、

3:11 悪から遠ざかり、善を行い、平和を願って、これを追い求めよ。

3:12 主の目は正しい者に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。主の顔は悪事を働く者に対して向けられる。」

3:13 もし、善いことに熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。

3:14 しかし、義のために苦しみを受けるのであれば、幸いです。人々を恐れたり、心を乱したりしてはいけません。

3:15 心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。

イザ 50:4 (口語訳)

50:4 主なる神は教をうけた者の舌をわたしに与えて、疲れた者を言葉をもって助けることを知らせ、また朝ごとにさまし、わたしの耳をさまして、教をうけた者のように聞かせられる。

I ペテ 3:8~15 (口語訳)

3:8 最後に言う。あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい。

3:9 悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである。

3:10 「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う人は、舌を制して悪を言わず、くちびるを閉じて偽りを語らず、

3:11 悪を避けて善を行い、平和を求めて、これを追え。

3:12 主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈りにかたむく。しかし主の御顔は、悪を行う者に対して向かう。」

3:13 そこで、もしあなたがたが善に熱心であれば、だれが、あなたがたに危害を加えようか。

3:14 しかし、万が一義のために苦しむようなことがあっても、あなたがたはさいわいである。彼らを恐れたり、心を乱したりしてはならない。

3:15 ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。

しっかりとした霊的な家庭で育ったにもかかわらず、主との関係から離れることを選んだ子どもたちがいます。そして、そんな子どもを持つことの苦しみや心の痛みを、多くの人が身をもって知っています。

問4 神に選ばれた民の一部、エフライムは、主から離れてしまいました。ホセア 4:17と7章は、エフライムの罪について何と述べていますか。

さらに、エフライムの祖母ラケルは、エフライムが主との関係から離れたために泣いていると、比喩的に記されています(エレ 31:15)。主は、次のような言葉(同 31:16, 17)で、彼女の深い悲しみに応えておられます。「泣きやむがよい。目から涙をぬぐいなさい。あなたの苦しみは報いられる、と主は言われる。息子たちは敵の国から帰って来る。あなたの未来には希望がある、と主は言われる。息子たちは自分の国に帰って来る」[口語訳「あなたは泣く声をとどめ、目から涙をながすことをやめよ。あなたのわがに報いがある。彼らは敵の地から帰ってくると主は言われる。あなたの将来には希望があり、あなたの子供たちは自分の国に帰ってくると主は言われる」]

問5 ラケルは、道を踏み外した子どものことで泣く代わりに、希望を持つようにと言われました。エレミヤは、ほかにどんなことを伝えてありますか。エレミヤ31:18、19を読んでください。

私たちはこれらの物語を通して、常に希望があることを学びます。なぜなら、神は見捨てられないからです。神は、道を踏み外した民を何度も叱責されますが、神の憐れみは決して尽きることがなく、この章における神のメッセージは続きます(エレ 31:20 参照)。

私たちは、神との関係から離れてしまった身近な人に対して、深く苦しみ、いら立ち、落胆を感じたり、否定的な言葉を口にしたりすることさえあります。しかし、神はここで、道を踏み外した子どもをご自分が忘れていないことを、私たちに思い出させてくださいます。決してです!そのような人に対する神の思いは、一時的なものではなく、心から誠実なものです。実際、神は、「胸(が)高まる」[口語訳「わたしの心は彼をしたっている」(エレ 31:20 参照)]と言われます。神は、彼らをご自分のもとに戻って来ることを切望しておられ、その憐れみは深いのです。

ラケルの苦しみに対する神の応答を知って、あなたは、主との関係から離れてしまった知人について、どんな気持ちになりますか。

【参考】英語テキストにはつづきがあります。(英文全体を記します)

How does knowing that this is God's response to Rachel's pain over Ephraim's waywardness make you feel about those you know who have walked away from a relationship with the Lord? How does this challenge or encourage you?

これがエフライムの背きに対するラケルの苦しみへの神の応答であると知ったことで、主との関係からはなれてしまった知人について、あなたはどんなことを感じますか。このことは、あなたにとってどのような挑戦、あるいは励ましとなりますか。

85

ホセ 4:17 (新共同訳)

4:17 エフライムは偶像のとりこになっている。そのまましておくがよい。

ホセ 7 章 (新共同訳)

7:1 イスラエルをいやそうとしても/かえって、エフライムの不義/サマリアの悪が現れる。実に、彼らは偽りをたくらむ。盗人は家に忍び込み/外では追いはぎの群れが人を襲う。

7:2 わたしは彼らの悪事をすべて心に留めている。しかし、彼らは少しも意に介さない。今や、彼らは悪に取り囲まれ/その有様はわたしの目の前にある。

7:3 彼らは悪事によって王を/欺きによって高官たちを喜ばせる。

7:4 彼らは皆、姦淫を行う者/燃えるかまどのようだ。パンを焼く者は小麦粉をこねると/膨むまで、火をかき立てずにじっと待つ。

7:5 我々の王の祝いの日に/高官たちははどう酒の熱で無力になり/王は陰謀を働く者たちと手を結び

7:6 燃えるかまどのようなたくらみに心を近づける。夜の間眠っていた彼らの怒りは/朝になると燃え盛る火のように炎を噴く。

7:7 彼らは皆、かまどのように熱くなり自分たちを支配する者を焼き尽くした。王たちはことごとく倒れ/ひとりとして、わたしを呼ぶ者はなかった。

7:8 エフライムは諸国民の中に交ぜ合わせ/エフライムは裏返さずに焼かれた菓子となった。

7:9 他国の人々が彼の力を食い尽くしても/彼はそれに気づかない。白髪が多くなっても/彼はそれに気づかない。

ホセ 4:17 (口語訳)

4:17 エフライムは偶像に結びつらなつた。そのなすにまかせよ。

ホセ 7 章 (口語訳)

7:1 わたしがイスラエルをいやするとき、エフライムの不義と、サマリアの悪しきわざとは現れる。彼らは偽りをおこない、内では盗びとが押し入り、外では山賊の群れが襲いきたる。

7:2 しかし、彼らはわたしが彼らのすべての悪を覚えていることを悟らない。今、そのわざは彼らを囲んで、わたしの顔の前にある。

7:3 彼らはその悪をもって王を喜ばせ、その偽りをもって君たちを喜ばせる。

7:4 彼らはみな姦淫を行う者で、パンを焼く者が熱くする炉のようだ。パンを焼く者は、ねり粉をこねてから、それがふくれるまで、しばらく、火をおこす事をしないだけだ。

7:5 われわれの王の日に、つかさたちは酒の熱によって病みわずらい、王はあざける者と共に手を伸べた。

7:6 彼らは陰謀をもってその心を炉のように燃やす。その怒りは夜通しくすぶり、朝になると炎のように燃える。

7:7 彼らは皆、炉のように熱くなって、そのさばきびとを焼き滅ぼす。そのもろもろの王は皆たおれる。彼らの中にはわたしを呼ぶ者がひとりもない。

7:8 エフライムはもろもろの民の中に入り混じる。エフライムは火にかけて、かえさない菓子である。

7:9 他国人らは彼の力を食い尽すが、彼はそれを知らない。しらがが混じってはえても、それを悟らない。

7:10 イスラエルを罪に落とすのは自らの高慢である。彼らは神なる主に帰らず/これらすべてのことがあっても/主を尋ね求めようとしない。

7:11 エフライムは鳩のようだ。愚かで、悟りがない。エジプトに助けを求め/あるいは、アッシリアに頼って行く。

7:12 彼らが出て行こうとするとき/わたしはその上に網を張り/網にかかった音を聞くと/空の鳥のように、引き落として捕らえる。

7:13 なんと災いなことか。彼らはわたしから離れ去った。わたしに背いたから、彼らは滅びる。どんなに彼らを救おうとしても/彼らはわたしに偽って語る。

7:14 彼らは心からわたしの助けを求めようとはしない。寝床の上で泣き叫び/穀物と新しい酒を求めて身を傷つけるが/わたしには背を向けている。

7:15 わたしは、彼らを教えてその腕を強くしたが/彼らはわたしに対して悪事をたくらんだ。

7:16 彼らは戻ってきたが/ねじれた弓のようにむなししいものに向かった。高官たちは自分で吐いた呪いのために/剣にかかって倒れ/エジプトの地で、物笑いの種となる。

エレ 31:15~20 (新共同訳)

31:15 主はこう言われる。ラマで声が聞こえる/苦悩に満ちて嘆き、泣く声が。ラケルが息子たちのゆえに泣いている。彼女は慰めを拒む/息子たちはもういないのだから。

31:16 主はこう言われる。泣きやむがよい。目から涙をぬぐいなさい。あなたの苦しみは報いられる、と主は言われる。息子たちは敵の国から帰って来る。

31:17 あなたの未来には希望がある、と主は言われる。息子たちは自分の国に帰って来る。

31:18 わたしはエフライムが嘆くのを確かに聞いた。「あなたはわたしを懲らしめ/わたしは馴らされていない子牛のように/懲らしめを受けました。どうかわたし

7:10 イスラエルの誇は自らに向かって証言している、彼らはこのもろもろの事があっても、なおその神、主に帰らず、また主を求めない。

7:11 エフライムは知恵のない愚かな、はとのようだ。彼らはエジプトに向かって呼び求め、またアッシリヤへ行く。

7:12 彼らが行くとき、わたしは彼らの上に網を張って、空の鳥のように引き落とし、その悪しきおこないのゆえに、彼らを懲らしめる。

7:13 わざわいななるかな、彼らはわたしを離れて迷い出た。滅びは彼らに臨む。彼らがわたしに向かって罪を犯したからだ。わたしは彼らをあがなおうと思うが、彼らはわたしに逆らって偽りを言う。

7:14 彼らは真心をもってわたしを呼ばず、ただ床の上で悲しみ叫ぶ。彼らは穀物と酒のためには集まるが、わたしに逆らう。

7:15 わたしは彼らを教え、その腕を強くしたが、彼らはわたしに逆らって、悪しき事をはかる。

7:16 彼らはバアルに帰る。彼らはあざむく弓のようだ。彼らの君たちはその舌の高びりのために、つるぎに倒れる。これはエジプトの国で人々のあざけりとなる。

エレ 31:15~20 (口語訳)

31:15 主はこう仰せられる、「嘆き悲しみ、いたく泣く声がラマで聞える。ラケルがその子らのために嘆くのである。子らがもはやいないので、彼女は子らのことで慰められるのを願わない」。

31:16 主はこう仰せられる、「あなたは泣く声をとどめ、目から涙をながすことをやめよ。あなたのわざいに報いがある。彼らは敵の地から帰ってくると主は言われる」。

31:17 あなたの将来には希望があり、あなたの子供たちは自分の国に帰ってくると主は言われる。

31:18 わたしは確かに、エフライムがこう言って嘆くの聞いた、『あなたはわたしを懲らしめられた、わたしはくびきに慣れない子牛のように懲らしめをうけた。

を立ち帰らせてください。わたしは立ち帰ります。あなたは主、わたしの神です。

31:19 わたしは背きましたが、後悔し/思い知らされ、腿を打って悔いました。わたしは恥を受け、卑しめられ/若いときのそりを負って来ました。』

31:20 エフライムはわたしのかけがえない息子/喜びを与えてくれる子ではないか。彼を退けるたびに/わたしは更に、彼を深く心に留める。彼のゆえに、胸は高鳴り/わたしは彼を憐れまずにはいられないと/主は言われる。

主よ、あなたはわたしの神、主でいらせられる、わたしを連れ帰って、もとにかえしてください。

31:19 わたしはそむき去った後、悔い、教をうけた後、ももを打った。若い時のはずかしめが身にあるので、わたしは恥じ、うろたえた。』

31:20 主は言われる、エフライムはわたしの愛する子、わたしの喜び子であろうか。わたしは彼について語るごとに、なお彼を忘れることができない。それゆえ、わたしの心は彼をしたっている。わたしは必ず彼をあわれむ。

木曜日 6月18日 彼らを連れ戻す

私たちはみな、神との歩みの中で、弱さを感じたり、心が揺らいだりした時期を経験しています。それは、心が不誠実だったり、あまりにも長い間、ただなまぬるい状態であったりした谷間のような時期です。そんなあなたを主との永続的な関係に引き戻したものは何でしたか。

問6 ゼカリヤ 10 章には、神がご自分の民をご自身のもとに連れ戻されるという、すばらしいメッセージが記されています。今、この章をゆっくり読んで、主要なメッセージに注目してください。

実際のところ、主との関係から離れてしまった大切な人とどう関わり、どう接したらよいのかは、簡単にはわかりません。あなたは、もし違う対応をしていたら、違う結果になっていたのではないだろうかと考えたり、今や異なる世界観を持っている相手と、どう接したらよいのだろうかと悩んだり、彼らがなおも誤った選択をしているかもしれないことに、いら立ちや無力感を覚えるかもしれません。こうした思いは、愛する人への接し方に常に影響を与えます。だからこそ、救い主との個人的な時間からあふれ出るものによって生き、語る事がとても大切です。

あなたの人生における証し、行動、言葉、そして神から離れてしまった配偶者や子どものための祈りは、彼らの人生と未来を根本的に変えることができます(イエスの祈りがペトロの将来をいかに変えたかがわかるルカ 22:31、32、ヨハ 21:15~17 を読んでください)。彼らに対して、あなたが悲しみや、非難や断罪の気持ちを抱いているなら、それらを手放し、代わりに、神だけが与えることのおできになる愛とそれらの感情を置き換えてくださいと神に求めましょう。あなたが愛情深い無私の態度の模範となれるよう、神の品性で覆ってくださいと神に求めましょう。「人の心を取り巻く影響の中で、無私の生活の感化ほど力のあるものはない。福音に対して好

感をいだかせる最も強い証しは、愛し愛されるクリスチャンである」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング』新装版 314 ページ)。

人々にキリストを指し示す一貫した生き方を私たちが実践することによって、キリストを拒んできた人たちは、私たちの内に、神のみがもたらすことのできる何かを見るでしょう。理解を超えた平安、決して手放すことのない愛、見込みがなくても信じ続ける希望を、彼らは見るでしょう。私たちと私たちが愛する人々に対する神の愛は、決して揺らぐことはありません。私たちは、自分が日々受けているこの愛を、周りの人に与えることができるのです。

【参考】英語テキストにある文

What does Ephesians 3:17-19 encourage us to do?

エフェソ(エペソ)3:17~19 は、私たちに何をどのように奨励していますか。

86

ゼカ 10 章 (新共同訳)

10:1 春の雨の季節には、主に雨を求めよ。主は稲妻を放ち、彼らに豊かな雨を降らせ/すべての人に野の草を与えられる。

10:2 テラフィムは空虚なことを語り/占い師は偽りを幻に見、虚偽の夢を語る。その慰めは空しい。それゆえ、人々は羊のようにさまよい/羊飼いがいないので苦しむ。

10:3 羊飼いたちに対して、わたしの怒りは燃える。わたしは雄山羊を罰する。万軍の主は御自分の羊の群れ、ユダの家を顧み/彼らを輝かしい軍馬のようにされる。

10:4 彼らから隅の石が、彼らから杭が/彼らから戦いの弓が/彼らからすべての指揮者が出る。皆、

10:5 勇士のようになり/戦って野の土くれを踏みつける。主が共におられるので、彼らは戦いを挑み/馬に乗る者らを慌てさせる。

10:6 わたしはユダの家に力を与え/ヨセフの家を救う。わたしは彼らを憐れむゆえに連れ戻す。彼らはわたしが退けなかった者のようになる。わたしは彼らの神なる主であり/彼らの祈りに答えるからだ。

10:7 エフライムは勇士のようになり/ぶ

ゼカ 10 章 (口語訳)

10:1 あなたがたは春の雨の時に、雨を主に請い求めよ。主はいなずまを造り、大雨を人々に賜い、野の青草をおのおのに賜わる。

10:2 テラピムは、たわごとを言い、占い師は偽りを見、夢見る者は偽りの夢を語り、むなしい慰めを与える。このゆえに、民は羊のようにさまよい、牧者がいないために悩む。

10:3 「わが怒りは牧者にむかって燃え、わたしは雄やぎを罰する。万軍の主が、その群れの羊であるユダの家を顧み、これをみごとな軍馬のようにされるからである。

10:4 隅石は彼らから出、天幕の杭も彼らから出、いくさ弓も彼らから出、支配者も皆彼らの中から出る。

10:5 彼らが戦う時は勇士のようになって、道ばたの泥の中に敵を踏みこじる。主が彼らと共におられるゆえに彼らは戦い、馬に乗る者どもを困らせる。

10:6 わたしはユダの家を強くし、ヨセフの家を救う。わたしは彼らをあわれんで、彼らを連れ帰る。彼らはわたしに捨てられたことのないようになる。わたしは彼らの神、主であって、彼らに答えるからである。

10:7 エフライムびとは勇士のようにな

どう酒を飲んだように、心は喜びに溢れる。その子らも見て喜び、心は主にあって躍る。

10:8 わたしは彼らを賈い/口笛を吹いて集める。彼らはかつてのように再び多くなる。

10:9 わたしは彼らを諸国の間にまき散らしたが/遠い国にあっても彼らはわたしに心を留め/その子らと共に生き続け、帰ってくる。

10:10 わたしは彼らをエジプトの地から帰らせ/アッシリアから呼び集め/ギレアドとレバノンの地に来させる。それらも彼らには十分ではないだろう。

10:11 彼らは苦しみの海を通過して進み/波立つ海を打つ。ナイルの深みはすべて干上がり/アッシリアの高ぶりは引き降ろされ/エジプトの王笏は失われる。

10:12 わたしは主にあって彼らに力を与える。彼らは御名において歩み続けると主は言われる。

ルカ 22:31、32 (新共同訳)

22:31 「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。

22:32 しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

ヨハ 21:15～17 (新共同訳)

21:15 食事が終わると、イエスはシモン・ペテロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペテロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。

21:16 二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペテロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。

21:17 三度目にイエスは言われた。「ヨハ

り、その心は酒を飲んだように喜ぶ。その子供らはこれを見て喜び、その心は主によって楽しむ。

10:8 わたしは彼らに向かい、口笛を吹いて彼らを集める、わたしが彼らをあがなつたからである。彼らは昔のように数多くなる。

10:9 わたしは彼らを国々の民の中に散らした。しかし彼らは遠い国々でわたしを覚え、その子供らと共に生きながらえて帰ってくる。

10:10 わたしは彼らをエジプトの国から連れ帰り、アッシリヤから彼らを集める。わたしはギレアデの地およびレバノンに彼らを連れて行く。彼らはいる所もないほどに多くなる。

10:11 彼らはエジプトの海を通る。海の波は撃たれ、ナイルの淵はことごとくかされた。アッシリヤの高ぶりは低くされ、エジプトのつえは移り去る。

10:12 わたしは彼らを主によって強くする。彼らは主の名を誇る」と主は言われる。

ルカ 22:31、32 (口語訳)

22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

ヨハ 21:15～17 (口語訳)

21:15 彼らが食事をすませると、イエスはシモン・ペテロに言われた、「ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」。ペテロは言った、「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです」。イエスは彼に「わたしの小羊を養いなさい」と言われた。

21:16 またもう一度彼に言われた、「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか」。彼はイエスに言った、「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を飼いなさい。」

21:17 イエスは三度目に言われた、「ヨハ

ネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペテロは、イエスが三度も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何かもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。

エフェ 3:17~19 (新共同訳)

3:17 信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。

3:18 また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、

3:19 人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。

ネの子シモンよ、わたしを愛するか」。ペテロは「わたしを愛するか」とイエスが三度も言われたので、心をいためてイエスに言った、「主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています」。イエスは彼に言われた、「わたしの羊を養いなさい。

エペ 3:17~19 (口語訳)

3:17 また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、

3:18 すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、

3:19 また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているものすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。

金曜日 6月19日 さらなる研究

「たとえ、口でなんと言おうと、もし、兄弟に対する無私の愛を持たないならば、神に対する純粋の愛を持っていない。しかし、他人を愛そうと努めることによって、この精神を得ることはできない。必要なのは、心の中にキリストの愛が宿ることである。自己がキリストの中に溶け込むとき、愛は自然に湧いて出る」(『希望への光』1338 ページ、『キリストの実物教訓』第 27 章)。

「心からの誠意をもって魂をイエス・キリストに導くために積極的に働いている人たちは、霊性と献身において最もよく成長している人たちです」(『伝道』第 10 章未掲載分 35 ページ)。

「悪に抵抗する力は、活動的な奉仕によって最も多く得られる」(『希望への光』1395 ページ、『患難から栄光へ』第 11 章)。

「キリストの喜び、すなわちキリストの犠牲によってあがなわれた魂を見る喜びに入るためには、われわれは彼らをあがなうキリストの働きにあずからねばならない」(『希望への光』735 ページ、『各時代の希望』第 14 章)。

「奉仕を通してキリストと交わる特権を拒む者たちは、主と共にそのご栄光にあずかるにふさわしい者となるための唯一の訓練を拒んでいます」(『真の教育』301 ページ)。

話し合いのための質問

- ① なぜ愛は、効果的な証しにとって基礎であり、不可欠なのでしょう。
- ② 魂の獲得が、神との個人的で活気に満ちた歩みと結びついているということを、あなたはいつ実感しましたか。
- ③ 神をほかの人に伝えるために必要な基本的な理解や基準といったものはありますか。もしあるとしたら、それは何でしょうか。
- ④ 未信者の人に聖書研究を授けるとしたら、どこから始めますか。最初の焦点は、何に合わせますか。特定の教義を証明することですか。それとも、イエスを知るように招くことですか。
- ⑤ 『希望の讃美歌』294 番「十字架の血潮もて」を歌ったり、歌詞を聴いたりして、自分がその内容をどう宣べ伝えているか、振り返ってみましょう。

話し合いのためのヒント：神の愛と、神の生ける力強い言葉が日々の生活を満たすとき、私たちは神を愛し、周りの人たちに神を伝えずにはいられなくなるでしょう。証しをするに関して、私たちはよく祈り、思慮深く、意図的である必要があります。また、神の口から出る言葉は、むなしく神のもとに戻ることはなく、それは神の望まれることを成し遂げ、神が与えられた使命を必ず果たす(イザ 55:11)と信じるべきです。

87

イザ 55:11 (新共同訳)

55:11 そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も/むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ/わたしが与えた使命を必ず果たす。

イザ 55:11 (口語訳)

55:11 このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果す。